

県本部・活動拠点本部会議(8月9日・朝)議事要旨

■決まったこと

●宇土(ウト)避難所の集約・周知完了

・宇城エリアにおける宇土の避難所を11日に集約することが決定し、避難者への周知を完了した。

●個別アセスメント記録様式の統一

・保健師とDWAT間で情報共有・ケアの引き継ぎがスムーズに行えるよう、統一された個別アセスメントシートの様式を決定した。今後は同様式およびフリー記述ペーパーを用いて記録・ファイリングを運用する。

●氷川町(公民館避難所)での夜勤体制スタート

・氷川町の公民館(福祉避難所)において、本日夕方(17:00~18:00引き継ぎ)より佐賀DWAT・鳥取DWATから各1名(計2名)を拠出して明朝までの夜勤体制を導入決定。

●個別巡回・緊急対応時の記録共有

・二見コミュニティセンターでの在宅要介護高齢者の対応のように、個別対応・支援を行った際はカタカナ表記等でも記録を保存し、拠点リーダーおよび本部間で情報共有を行うこととした。

1. 各地域からの報告(本日の行動予定、課題等)

●八代地域

・体制

長崎DWAT(第2クール 3名 / 男性)

岡山DWAT(1名)

宮崎DWAT(3名)

福岡DWAT(5名:福祉避難所に常駐)

ロジ支援:武田先生 他

・活動実績・進捗

→全39箇所の避難所に対する「ラピッドアセスメント(1巡目のスクリーニング)」が完了。

・本日の活動予定

→坂本村・周辺巡回:黒木先生・新井先生が坂本村コミセンおよび周辺地域(美里町等で懸念される車中避難者・在宅避難者)の現地確認・巡回を実施。

→福祉避難所支援(希望の里):宮崎チーム等と協力し、福岡DWATとも連携し

て外部連絡や移送・アセスメント支援を補強。

・避難所内調整： トヨオカアリーナ廊下に滞在している避難者のアセスメント
→および昭和アリーナ等への移動（明日予定）に向けた調整。

●宇城地域

・体制

熊本 DWAT（1 名）

香川 DWAT（4 名）

広島 DWAT（4 名）

大分 DWAT（4 名）

第 3 クール交代組（大分：5 名 / 本日 11:00 到着・引き継ぎ予定）

・活動実績・進捗

→小川地区避難所にて段ボールベッドの搬入・区画整理が完了。

・本日の活動予定

→不知火（しらぬい）地区にて、日頃デイサービス利用等で会えなかった避難者
に対し、デイ休業日（本日）を活用して現地状況確認を実施。

・小川地区での個別アセスメントの展開。

→11 日の宇土避難所集約に向け、10 時より現地に入り状況・確認を行う。

●氷川地域

・体制

鳥取 DWAT（チーム員 4 名、事務局 2 名 = 計 6 名）

佐賀 DWAT（5 名）

熊本 DWAT（米田氏、吉鶴氏 等）

・活動実績・進捗

→公民館避難所以外の 4 箇所（中学校・小学校含む全 5 箇所）の巡回を完了。

・本日の活動予定

→西部（さいぶ）小学校の対応検討： 高齢者・車椅子・歩行器利用者・床移動
者（下半身機能低下等）が多く確認されたため、熊本 DWAT（米田氏）と協議し、
生活環境改善や施設移送・福祉避難所への移行検討を開始。

→衛生管理・体調確認： 夜間緊急入院者の把握、食事残渣等の処理、衛生環境
の整備。

→シャワーカーの設置調整： 鳥取県保有のシャワーカーを公民館福祉避難所に
設置するため、役場および県担当者と現場立ち合い・運行調整。

→夜勤体制の開始： 佐賀 DWAT・鳥取 DWAT から各 1 名体制で夜勤を開始。

3. 確認事項・共有事項

- DWAT 派遣メンバー・名簿の確認

- ・八代の長崎第2クール（男性3名）の反映状況確認。
- ・宇城の山口県リガトの人数表記（ボード記載の5名→正規名簿の「3名」へ正確に訂正）。

- 被災高齢者等把握事業（県庁）との情報連携

- ・県庁（高松氏）より、今後の巡回・把握事業のため DWAT のアセスメント情報共有を依頼。ラピッドアセスメント Web データベースへの正確な入力を継続する。

- 外部 NPO・他団体との役割分担（八代）

- ・内閣府防災ルートで入っている NPO グループ（被災者支援チーム等）と連携。避難所の環境改善・運営体制づくりを NPO 側に任せることで、DWAT が被災者の個別アセスメント・直接ケアに注力できる体制を構築する。

- 社協・DMAT との連携・在宅アウトリーチ引き継ぎ（宇城）

- ・11日にDMATが撤退することに伴い、社協+DWAT（ボラセン経験の豊富な広島チーム等）で在宅被災者へのアウトリーチ（訪問・状況把握）を引き継ぐ方向で調整中。

- 避難所困難者の施設・受入調整（ショートステイ等の活用）

- ・床移動や介助困難者等、避難所生活が困難な要配慮者について、老人福祉施設協議会（老施協）等の協力のもと、熊本市内のショートステイ空床（送迎付き）や福祉避難所への受け入れ調整が可能であることを全体で確認。

- 本部の保健医療福祉調整本部・運営会議体制の把握

- ・本部（小林氏）より各拠点のロジ担当（八代：武田、氷川：白鳥、宇城：斉藤）に対し、各地域の保健医療福祉調整本部の参加構成機関、開催時間、避難所運営会議の実施状況を整理して報告するよう要請。

4. 今後の方針

- 「スクリーニング」から「個別アセスメント・継続ケア」への移行

- ・一巡目のラピッドアセスメント（39箇所等）が概ね完了したため、今後はリスクの高い要配慮者（高齢者、障害者、体調変化者）に対する個別アセスメント、個別ケアの記録蓄積、直接支援へ重点を移す。

- 学校等避難所の閉鎖・集約に伴う「出口支援（移行支援）」の本格化

- ・8月末の小・中・高校等の避難所閉鎖・集約（夏休み明け）を見据え、熊本県 DWAT 要綱に基づき、被災者の次の生活拠点（福祉避難所・仮設住宅・在宅復帰・

施設入所等）へのスムーズな移行を支える「出口支援」を強化する。

●在宅・車中避難者へのアウトリーチ・支援網の拡大

・避難所以外に滞在する在宅避難者・車中避難者（坂本村、美里町等）に対し、地域包括支援センターや社協、保健師と連携した情報収集・巡回アウトリーチ・物資届出を継続・拡張する。